

## 令和元年度 経営協議会学外委員からの主な意見と本学の対応状況

| 経営協議会                 | 学外委員からの意見   | 本学の対応状況  |
|-----------------------|---|--|
| 第1回<br>(平成31年4月23日開催) | <b>【平成30年度富山大学基金寄附受入状況について】</b><br>・基金の現在の残額、毎年の支出額及び事業計画等について、今後知らせていただきたい。  | ・基金の収支、決算及び活動報告について経営協議会にて報告を行う。   |
|                       | <b>【「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)」ランキングにおける本学の順位について】</b><br>・大学が実施していることを、積極的にわかりやすく大学外に伝えることが必要である。  | ・本学の取組については、WEBサイト、広報誌、ニュースリリースや、本学におけるイベント等を利用して、情報発信を行っている。情報発信の方法等については、新たな発信方法の導入を含め、改善・検討を図っている。  |
| 第3回<br>(令和元年6月25日開催)  | <b>【その他】</b><br>・文理融合型の総合大学として、文系の役割を打ち出していただき、社会課題解決に取り組んでほしい。   | ・令和4年の全学的な大学院改組に向けて、文系大学院において、社会課題解決能力を養う教育の実施を盛り込む方向で検討を行っている。  |
|                       | <b>【その他】</b><br>・外部資金獲得のため、積極的に県内経済界との交流の機会を持っていただきたい。  | ・大学からの積極的な働きかけにより富山大学産学交流振興会の会員企業数は、'20年1月現在129社とこの3年間で大幅に増加しており、今後は教員、研究者と企業との交流を質的にも充実させる。2020年度は、学生、研究者と企業との交流の場としてこれまで開催してきた「業界・企業研究会」を発展的に改編し、大学の教員・研究者と企業・地元経済界の交流に重きを置いたイベントを開催予定。来年度以降、さらなる企業ニーズの把握、外部資金拡大に向けて産学連携関連人材の質的・量的拡充を図りたい。 |
| 第6回<br>(令和元年11月26日開催) | <b>【国立大学改革方針を踏まえた将来構想について】</b><br>・SDGsは国際的な開発目標であるため、人口減少や地方創生といった日本独自の持続可能な開発目標などを加えてはどうか。<br>・芸術系学部(「ART」)を持つ国立の総合大学は多くないため、「STEM」に「A」を加えた「STEAM」教育を展開できることは、富山大学の特色となる。蒸気機関(スチーム)の改良により産業革命が発展したことを踏まえ、大学も「STEAM」教育により、持続可能な社会への発展に寄与し、大学改革に繋げてはどうか。<br>地域に生きる大学として、企業との連携、地域の人材育成など、人文社会系学部を含め、国立大学が果たすべき役割が評価されるようアピールが必要である。 | ・国立大学改革方針を踏まえた文部科学省との徹底対話に係る調書について、左記の意見を受け、該当部分の記載については、地域に生きる大学として自治体・経済団体と連携し、地域の人材を育成することや、人口減少などの課題解決に寄与し、地方創生に貢献することなどを追記した上で、文部科学省へ提出した。  |
| 第7回<br>(令和2年1月28日開催)  | <b>【令和2年度富山大学予算編成方針(案)について】</b><br>・大学として女性研究者比率を上げたいのであれば、若手・女性研究者とまとめず、採用時に明確にアピールしたほうが良いのではないか。  | ・令和2年1月28日開催役員会において「本学の研究力向上と教育研究の活性化に向けての教員の職階構成及び年齢構成の適正化への取組方針」を決定し、40歳未満の助教・講師、若しくは女性教員を採用する場合は、現在行っている後任補充の半年間留保の原則を適用しないこととしたため、本方針決定以降、「女性限定公募」や「女性優先公募」を推奨しており、公募件数が増加傾向にある。   |
| 第8回<br>(令和2年3月25日開催)  | <b>【令和元年度附属病院の経営状況について】</b><br>・強化できる部分を更に伸ばすことで利益が増える。利益を増やす事により、大学全体に使用できるよう、戦略的に計画が必要ではないか。  | ・附属病院で得られた利益については、大学本部と協議しながら有効に使用している。  |